

イエスのカリタス友の会会員の皆様、この冊子をご覧になってくださっている皆様、お元気でいらっしゃいますか。皆様のご支援のお陰で、2017年度も、日本管区が関わっているブラジル、ボリビア、ペルーと南スーダンに、寄付を届けることができたことを、大変うれしく思っています。友の会を、お祈りや励まし、そして、経済的なご支援、使用済み切手やバザー物品の送付など、様々な形で支えてくださっている皆様に心から感謝を申し上げます。

今、私の机の上に一編の詩があります。10年程前、秋田の友人に頂いたものですが、「難しい、何と大変な内容の詩だろう」と思ってそのままにしておいたものです。それは河野進さんの次の詩です。

「出発」

愛はもうこれ以上

進めない所から出発する

愛はもうこれ以上

施せないところから出発する

愛はもうこれ以上

手の打ちようのないところから出発する

愛はもうこれ以上

命がないところから出発する

『母さん幸せにしてあげる』より

この詩の「愛」とは、一体どのような愛なのでしょう？ どうすれば、この愛を尽くせるのでしょうか？

改めて、この詩に向き合ってみると、今は亡き島本大司教様が教会の主任司祭をしておられた時のエピソードを思い出しました。ある日、教会に一人の男性が入って来て、言ったそうです。「教会は変な所だ。十字架の上で血を流している男の像を正面において拝んでいる」。神父様は、突然のことで答えに困ったそうですが、咄嗟に、「本物の愛は傷つく、あの人は神の子だけれど、私たち人間のために血を流して命をささげてくださった」と答えたそうです。私自身も、この話を修道院の姉妹に伺った時、イエスが命を懸けて愛を示してくださったことの意味が心に深く響いたことを覚えています。

ちょうどその頃、『マザーテレサ 愛は傷つく』が出版され、その中に次の一節がありました。

「生きている愛は傷つきます」

イエスのご自身の愛を証するため

私たちの身代わりとして

十字架上で死なれました。

母親は自分の子を産むために

苦しまなければなりません

もし

皆さんがお互いに 正しく

本当に愛しあっているなら

大きな犠牲がなければなりません。



マザーテレサも私たちに示してくれます。イエス・キリストの愛、それは遠くにおられる神ではなく、私たちのすぐ近くで私たちと共に苦しみ、私たちのためにご自分の命を差し出す神の愛です。その愛に似ているといわれるのは、自己犠牲を伴う愛、まったく報酬を求めない母親の愛です。十字架に込められているイエスの本物の愛・生きている愛によって、わたしたち一人ひとりも、愛を尽くすように招かれ、励まされているのではないのでしょうか？

しかしながら、分かっているけれども実行できない弱い私たちを、神はイザヤ書の次のことばで受け止めてくださいます。

「女が自分の乳飲み子を忘れるであろうか…たとえ、女たちが忘れようともわたしがあなたを忘れることは決してない」
(イザヤ49章15節)

このように私たちの常識を超える神の憐み深い愛を、私たちは、誰一人除外なく頂いています。最初にご紹介した「出発」の“愛”を“神の愛”に置き換えると、その愛に支えられて、私たちが出発できるのではないかと思えてきます。

ところで先にお話した島本神父様と出会った男性は後に教を学んで洗礼を受けたと聞いています。イエスの本物の愛に気づく恵みを頂いた幸せな方だと思います。

さて、日本に一時帰国していたボリビアのシスター方は、5月に、貧しくはあっても、たくましく成長する子どもたちが待つ地へと元気に戻りました。そして6月3日には、シスター高平が3か月の予定で南スーダンに向けて出発しました。それぞれの旅立ちの際、皆様から頂いた献金をお渡しすることができ、シスターたちは、大変感謝しておられました。献金に込められた皆様方の温かいお心に励まされたことでしょう。これからも、外国で働くシスターのためにお祈りくださいますようお願い致します。

暑い夏も、皆様様が神様のご保護と祝福のうちに健やかに過ごされますようにお祈りしています。今後ともイエスのカリタス友の会をどうぞよろしくお祈り致します。

イエスのカリタス友の会 コーディネーター
シスター 峯 妙子



ボリビアより感謝の便り



オガールファチマの職員給与 生活必需品購入費支援願い

2018 年度もオガールファチマの職員給与 2 人分のご支援を申請させて頂きたいと思いません。今年昨年より更に国や県の経済状況は低下しているようです。昨年10月、法令が新たにされ、県の正式措置児のみに食費支援が支給されることになりました。市の福祉課から施設へ入所する児童は1ヶ月以上その子の調査のために当てられ、県も市もその間の費用は支援をしないという、おかしな処置になりました。ここボリビアでは県や市の福祉課に一時保護所がなく、直接適当な施設に保護要請があります。その施設で事情調査が済み、措置手続き書類が完了し、家庭裁判所のOKが出て、初めて正式措置児として認められます。オガールファチマでは、一時入所児が多く、市の福祉課の調査遅滞で、正式措置児は少数だったので、実入所児は70名でも、35名分の

食費支援しか支給されず、しかも11月から毎月約1,200ドルずつ減額になっています。この困った現状は他の施設にも起こっていることで、司教様はじめ教区で善処策が考慮されはじめています。しかし解決には相当の期間がかかることが予想されます。

以上のような理由で昨年10月に生活必需品購入費を頂いたばかりですが、今年も6,000ドルを、職員給与支援と合わせて、ご支援いただけないでしょうか。ご検討よろしく願い申し上げます。職員給与の今年の値上げが今政府と労働者間で、取りざたされていますが、最低給与10%が値上げの予想です。

カリタス友の会のスタッフの方々、会員皆様の寛大なご理解とご援助にどれほど助けられているか、計り知れません。深く深く感謝申し上げます。

申請金額合計 18,600 ドル

この申請について、資金全額を支援することが可能であったため、申請は受け入れられ、ボリビアへ全額お渡しすることが出来ましたことを報告申し上げます。

イエスのカリタス友の会、会長、

スタッフ、会員の皆様

イエスのカリタス友の会の皆様方には梅雨時を如何お過ごしでいらっしゃいますか。6月を迎えると梅雨にぬれて、一際美しく彩る紫陽花に、目を奪われ心も和んだことが思い出されます。しとしとと大地にしみこみ、自然の恵みを萌えさせ、生き生きと育てる雨のように、この乾燥したオガールファチマにも、5月に友の会の慈雨をたくさんいただきました。寛大なご配慮、ご支援に心からの喜びと感謝を申し上げます。誠にありがとうございました。ご支援の内容は、職員給与12,600ドル、並びにこども達の食料購入費6,000ドル、計18,600ドルでございました。このご支援の中に、

皆様それぞれの尊い善意やご努力のストーリーがあってのことと感謝に耐えません。イエスのあわれみ深い愛を感じさせる会員皆様方のご芳志は、毎日ミルクを作り、オムツ衣服をかえ、だっこや遊びの世話をしてくれるママさんの手となり、子供たちの大好きなおやつ、スープ、パン、お肉となり、オガールファチマの子どもたちに届いています。

ボリビアは5月頃からだんだん冬の乾燥期に入り、6月になって気温が急降下し、寒さが厳しくなっています。5月半ばには、乳幼児20名余が肺炎に罹り、油断できない事態となりましたが、幸い大事に至らずほっとしています。4、5歳の幼児たちは、厳しい寒さにもめげず、室内外で丸々着込んで遊び、よく食べ、

午後は幼稚園の大量の宿題に、時には泣きながら挑戦しています。保母さんは1人で、子供10人余の宿題の手助けをすることになるので、時には、忍耐が頂点に達してしまうこともあります。

オガールファチマには現在60名ほどの入所児がいます。両親から売られる所を、近所の人通報で両親は逮捕されたため、生後3日で当院に入所した男児、生後すぐに捨てられた乳児、1才8ヶ月になっても立つことができない栄養失調児など、恵まれない境遇のため入所している乳児が11名、2～3才の幼児が16名、4～6才児が30名ですが、この数は毎日のように変化します。迷子、麻薬吸引者、路上生活者からの子供引き離し、虐待、捨て子などが主な理由で、昼夜を問わず、市の職員が連れて来るからです。乳幼児の施設が、サンタクルス市郡に3施設しかないため、当院もあてにされています。こうして入所した子供たちは市の一時保護となりますが、家庭調査その他必要な書類の調整期間が1ヶ月以上あり、その間の食費、医療、教育費は全額施設側の負担です。市が負担の責任なのですが、市は1年に1

度補助金を支給するだけで、それも年末にしか受け取れません。しかも、子供1日1人当たり1ドルに届かない金額です。現在こちらには、入所して1ヶ月を超えているのに正式措置児として登録されていない子供たちが15名いますが、なかなか調査が進みません。新しい入所児は、受け入れが困難なのですが、真夜中に連れて来る市職員の申し訳なきような顔や子供の不安そうな顔を見ては、無下に断ることが出来ません。イエスのカリタス友の会の援助は、これらの子供たちの為にあるのでしょうと解釈して、受け入れを緩やかにしています。

このようにカリタス友の会のご支援、ご協力支えられながら、子供たちの心身の成長を、神様の愛の眼差しと愛の手で、シスターズ、職員一同見守って参りたいと思います。友の会の皆様方の上に、イエスの愛と恵みが豊かに注がれ、ますますご健康で過ごされますようにお祈り申し上げます。

オガールファチマ

2018年6月4日

シスターベネディクタ立石順子



生後3週間の赤ちゃん



真冬の朝食



洗礼式



職員黙想会



ペルーより感謝のお便り



マルチメディアの導入費の支援

ペルーも教育程度をあげる兆しがやっと見えて来て、国から学校経営の基準が発表され、基準に達していない学校への指導が強化されつつあります。アントニオカヴォリ学園は、国が要求する現代の教育システム改善に後れを取っているため、一つでもその基準に達するよう改善していきたいと思っております。そ

の目的で、せめて各教室にマルチメディアを入りたいと希望しております。各教室に古いテレビが備えてありますが機能しておりません。11教室ありますが、計画として来年はせめて小学校にと考えています。どうぞ、学校教育の大切さをご存知の友の会の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

申請金額合計 6,000 ドル

この申請について、資金全額を支援することが可能であったため、申請は受け入れられ、ペルーへ全額お渡しすることが出来ましたことを報告申し上げます。

親愛なるカリタス友の会の皆様へ

5月に扶助者聖マリア様を称えながらロザリオを手に毎日の御聖体訪問を頑張ってきた子供たちは、6月、み心の月を迎え、感謝の気持ちを込めて、皆様のためにイエス様のお恵みを祈っています。日本は今、緑の美しい季節ですね。こちらは日に日に寒くなり冬を迎えようとしています。

この度はアントニオカヴォリ学園のマルチメディアのためにご支援頂きまして、皆様の寛大なご協力に心から感謝しています。リマの学校では何処も競争で新しい取り組みに励んでおり、その一環としてマルチメディアに力を注いでいます。耳で聞いて、目で見て、よく理解できるように…そのためにはどうして

もプロジェクターが必要でした。学校のテレビはすでに古くなっていましたので。ご支援で設置されたプロジェクターを見て職員も生徒たちも大喜びでした。これを使った色々な教材を活用したダイナミックな授業を通して、子供たちの興味を引き、集中力を養い、理解を深め、良い成果をあげることと思います。

職員・生徒一同、イエスのカリタス友の会の皆様方の寛大なご協力に心より感謝し皆様の上に神様の豊かな祝福とご健康・ご活躍をお祈りしています。本当にありがとうございました。

アントニオカヴォリ学園
校長 シスターマリアミカエラ山田初美



マルチメディアを活用して勉強する生徒たち





ブラジルより感謝のお便り



サン・マテウス カリタス学園奨学金援助

サン・マテウスカリタス学園は今年、創立 20 周年を迎えました。カトリック経営の学校のない貧しい地域に質のある教育を提供するために 7 名の園児で始まり、子どもたちの教育に力を入れています。神様のご保護とカリタス友の会の皆様をはじめ沢山の方々の支援、奉仕によって歩いて来られたことに感謝しております。さて、私たちは 2016 年に奨学金援助依頼をさせていただき、友の会の皆様の援助をいただきました。その節はありがとうございました。経済的理由で入学手続きができない生徒や両親の収入の低賃金のために学費を払うのに困難を抱えている家庭など様々なケースがありましたが、皆様の援助のおかげ

で子どもたちが継続して本校で学んでおります。そして、この度もこのようなケースの子どもたちの奨学金のために援助をお願いできなしかと依頼させていただきました。経済的な問題で奨学金援助を申請している家庭が現在 40 件です。収入が低賃金のため困難を抱えていたり、病気や手術のために困難であったり、父子家庭、母子家庭など様々な問題があります。子どもたちが安全な環境の中で質の良い教育を受けられることは、子どもたちの未来の糧になることを私たちは信じています。どうぞ、子どもたちが続けて本校で学ぶことができるように奨学金援助をよろしくお願いいたします。

申請金額合計 43,800 ドル

この申請について、資金の一部を支援することが可能であったため、申請は受け入れられ、ブラジルへ 4,000,000 円をお渡しすることが出来ましたことを報告申し上げます。

イエスのカリタス友の会の皆様
いかがお過ごしでしょうか。

先日は私たち 32 名の子ども達の奨学金援助依頼を受諾して下さい、本当にありがとうございました。申請を受諾して下さったと言う知らせを受けて、喜びと感謝の気持ちでいっぱいです。1 月の末から新学期が始まったのですが、経済的な問題を抱えている家庭の子どもたちも本校で学び、また私たちも子どもたちを安心して受け入れ、運営していくことができそうです。今年度は私たちの目標を上回り 500 名の園児、生徒で新学期をスタートしました。皆様をはじめ多くに方々の支援、奉仕そして神様のご保護によって運営していくこ

とができることに日々感謝しております。信仰と同じように教育もすぐに実りが見られるわけではませんが、日々の教育、関わり、特にドン・ボスコの模範を実践しながら職員と共に子どもたちと関わって行きたいと思えます。ブラジルの子どもたちが貧富の差なく、共に学び平等に秩序正しく生活していくことができるようにと願いながら教育に励んで参ります。今後ともよろしく願いいたします。イエスのカリタス友の会の皆様、お一人おひとりの上に神様の祝福がありますように、感謝のうちに。

サン・マテウス学園校長
シスターベルナデッタ中川



サン・マテウス カリタス学園の生徒たち



南スーダンよりお礼

南スーダンで活動しているシスター下崎から「イエスのカリタス友の会の皆様に大きな感謝を伝えて下さい」と伝言を頂いています。南スーダンの状況は詳しくはわかりませんが、6月3日に現地入りしたシスター高平のメールから、小さな情報をお知らせいたします。

「イエスのカリタス友の会の寄付金は、総本部のシスター末吉を通じてシスター下崎に届けられました。シスター下崎は、「頂いた支援については共同体で用途を話し合い、使用させていただきつつもりですが、緊急の必要としては、子

どもセンター（120名程）の子供たちが、週に2回しかミルクを頂くことができないので、毎日飲ませてあげられるようにしたい」とのことでした。「友の会だよりの記事をかけなくてごめんなさい。皆様にくれぐれもよろしくお伝えください」との事です。

このように現在も南スーダンでの活動は厳しいようです。南スーダンでは日本人の会員が2名、そして韓国人の会員が7名、2つの修道院で活動しています。皆様のお祈りとご支援をこれからもどうぞお願い致します。



シスター高平（左）



南スーダン共同体



子どもセンターでの活動



イエスのカリタス友の会 会計報告

2017年4月1日から2018年3月31日まで

《収入の部》

(単位：円)

科 目	金 額
寄付金収入	7,982,183
一般からの寄付金収入	6,676,107
CD 寄付金	1,306,076
荷物送料	0
その他の収入	1,691,648
バザーによる収入	1,350,562
雑収入	341,086
前期繰越金	3,815,011
収入合計	13,488,842

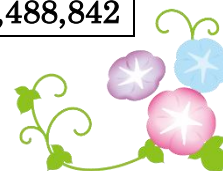
《支出の部》

(単位：円)

科 目	金 額
宣教活動支援費	12,333,847
イエスのカリタス会日本管区	0
イエスのカリタス会ブラジル準管区 サン・マテウス カリタス学園奨学金援助 3月	4,000,087
イエスのカリタス会ボリビア オガールファティマ職員 2人分の給与 4月	1,167,735
オガールファティマの生活必需品 (ミルク、医薬品、油代他) 12月	698,280
オガールファティマ職員 2人分の給与 3月	1,371,384
イエスのカリタス会ペルー アントニオ・カヴォリ学園 小学校視聴覚教材	683,460
その他 ブラジル支援	100,000
ボリビア支援	440,000
南スーダン支援	3,872,664
運営費支出	301,303
荷物送料	0
通信費支出	262,534
消耗品費支出	20,769
手数料支出	2,000
その他の支出	16,000
次期繰越金	853,692
支出合計	13,488,842

皆様のご支援のおかげで、上記の援助を行うことができました。

心から感謝申し上げます！



バザーの報告

下井草教会クリスマスバザー



主のご降誕を間近に迎える12月17日、神父様、信徒の皆様のご協力に励まされ皆様から沢山の品々を所狭しと並べ販売いたしました。

今回はシスターの作られたおにぎり、ぜんざいはごミサのあとの安らぎでした。ホッとするお味と大好評12月の恒例になりそうです。信徒の皆様有難うございました。

下井草教会春のチャリティーバザー

4月8日、朝8時から12時まで開かれた下井草教会でのバザーは、好天に恵まれ、大盛況でした。このバザーは「イエスのカリタス友の会」のみの出店でしたから、お客様は「友の会」に集中。シスター手作りのケーキ、お結び、豚汁そして、野菜、卵など食品は完売。衣類、雑貨、食器類も喜んでお買い上げ下さいました。今回は、つぼみの寮(0才~2才まで)の可愛いお客様が、職員の方々の押す、4人乗りバギーで訪れて下さり、シスター手作りのマドレーヌを、小さなお口に頬ばっておりました。感謝の内に幕を閉じました。



井荻聖母幼稚園クリスマスバザー

12月18日～20日まで、井荻聖母幼稚園のクリスマス会にあわせて、幼稚園入り口にてミニバザーを行ないました。毎年、園児たちのクリスマス会を見学し、真剣にサンタクロースを呼んでいる姿が大変ほほえましく思えます。幼稚園の保護者の方にバザーの趣旨を説明しながら、クリスマス、主の降誕を迎える準備として貧しい方々への愛の分かち合いのよき日となりました。



カトリック碑文谷教会バザー

5月27日、お天気に恵まれた碑文谷教会のバザーに出店させていただきました。今年は駐車場から販売場所まで少し離れていて、両手で抱えたり台車で荷を運びました。シスター手作りケーキのほか、たくさんの寄贈品が工夫を凝らして並べられスタート。品選びをされるお客様とのやりとりやロザリオ、カードなど真剣に選ぶ子供たちに元気をもらい、時おり吹き抜ける風に大自然からの癒しをもらい、ともに売り場に立つお嬢さんたちのさりげないしぐさにも励まされ、暑さも疲れもいつか遠のきバザーを楽しみました。ご協力いただいた皆様に感謝の一日でした。



バザー協力者 44名（団体含む）

寄付支援者 202名（（団体含む）

使用済み、未使用切手・書き損じハガキ・外国コイン 82名（団体含む）

ご支援、協力いただきました。ありがとうございました。

事務局からの声

数か月前から地方で地割れが続発して、その原因は今年の冬の大雪が土の中に染み込んだせいだと説明されていた。すべての事柄は良くも悪くも過去の出来事によって引き起こされます。カリタス会のシスター方は日本では想像も出来ない劣悪な状況の中で宣教活動がされています。その施設はとても小さく、でもとても温かい環境です。日本でも子ども達の教育の為に奔走していらっしゃいます。何年かかるかはわかりませんが、シスター方のお働きの成果は必ず実を結ぶ日が来ます。既に少しずつ子ども達が巣立っています。私たちも応援したいと思います。今後も温かいご支援をお願いしております。(K.Y.)

友の会員の皆様方の日頃の御支援に、深く感謝を申し上げます。5月末に、3泊4日で五島巡礼に参加する機会を与えて頂きました。天気に恵まれ、心配をしていた船の揺れもなく、下五島から上五島の野崎島迄の巡礼の旅でした。キリシタン弾圧の中、偏狭の地で身を隠しながら、信仰を守り続けてこられた多くの信徒の方々に畏敬の念を抱くと同時に、今も尚 脈々と受け継がれている深い信仰が、生活の中に溶け込んでいる現在の信徒の方々のお姿に、頭が下がる思いと共に、己の信仰を省みました。又、派遣の地で活躍されておられるシスター方のご依頼に叶えられるように励んでまいります。(Y.M.)

幼い子供たちの悲惨な話題の多いこのごろ、「両親に愛されたい」ただただそう思う純粋な言葉の数々に胸がつまる。新聞によると歴戦の刑事を束ねる捜査一課長が涙で読めなくなった言葉。この歳になると、幼い子の泣き声が一番つらい。パソコンにおかかってボーっとしていた時、軽井沢の校外学習に行っていた孫からハガキが届いた。いつもは、「ばーば」と言っているのに「T子さん」と書き出してあった。可笑しくもあり、可愛く思いながめつづけた。誰も神様からの預かり者、愛されて育ってほしいと祈った。(T.I.)

高山右近の列福式から1年の2月、フィリピンの巡礼に参加しました。訪問した教会、車窓から見る町に、買い物に訪れたショッピングモールにたくさんの若い人が……。平均年齢が27歳ぐらいとも聞きました。聖堂では揺れるばかりの歌声と聖体拝領の長い列に圧倒され、フィリピンの方々の深い信仰は生活そのものだなあと感じながら3日間の旅から帰りました。(K.K.)

先日、4月に大分から東京に戻られたカリタスのシスターとお話しをする機会がありました。何年前に亀川の黙想の家での九州地区の友の会の集いでうかがった際のことなどお話ししました。その折大勢の会員が友の会を支援してくださっていることを実感したことを思い出しました。(Y.F.)

南スーダンへの宣教のため、シスターが出発しました。シスターの神に対する信頼と勇気、貧しい人々への愛に頭が下がる思いです。日本では想像ができない困難があると思います。南スーダンに1日も早く、安心して暮らすことが出来る社会が実現するよう祈るばかりです。(M.T.)

バザーのお知らせや報告、スモールクワイアによるコンサートのお知らせ、活動報告などが、イエスのカリタス修道女会のホームページでもご覧になれます。海外や日本で働くシスターたちの宣教活動、CDのお申し込み方法なども載せてありますので、ぜひご利用ください。 <http://www.m-caritas.jp>

寄付金受入れ口座

加入者名 イエスのカリタス友の会

郵便振替口座 00160-2-564970

発行 イエスのカリタス友の会

〒167-0021 東京都杉並区井草 4-20-5

TEL : 03-3396-2171 FAX : 03-3396-2150

e-mail : tomonokai@m-caritas.jp

代表 山縣久美子 事務局長 片山久美子